

目指す学校像	○就労を目指し、自己実現のできる学校 ○無限の可能性へチャレンジできる学校 ○学ぶ喜びを感じ、感動できる学校 <2018生徒・教職員共通スローガン> 「挑戦・感動 そして 笑顔」 「Keep On Smiling」 & 「Be a (role) Model」 & 「Only One In Japan」 (笑顔で行こう) (お手本になれ) (日本でただひとつ)				
昨年度の成果と課題	重点項目 (学校組織目標)	重点目標	達成状況		
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の実施状況や生徒の実態の変化等から年間指導計画を見直し、各教科・領域間の学習内容の関連や各学年間の指導内容の系統性等を整理した。</li> <li>働き続けるための力を育成し生活場面で実践するため、「道徳」と「自立活動」の内容を合わせた教科等の指導「ジョブスタディ」の授業研究を基に、専門教科の中で実践・検証を行った。教科指導等における自立活動の視点を取り入れた授業実践、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善、ICTを活用した授業実践が課題である。</li> <li>7つの運動部と4つの文化部の11の部活動編成で全教員を顧問として配置し指導を行った。働き続けるための体力の向上、保健体育の授業の充実、特体連、ゆうあいスポーツ、全スポ、パラリンピックに向けた競技力の向上、高文連に向けた、自己表現できる芸術文化的活動の充実を継続して図っていく必要がある。</li> <li>部活動充実のため、部活動再編の検討が必要である。</li> </ul>	1 社会生活・職業生活に必要な学力や体力の向上	① 教科指導等における自立活動の充実 ・学校研究・計画訪問との連動 ・合理的配慮の検討 ② 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善、ICTの活用 ・グループ学習、ペア学習等の導入 ・校内授業参観の実施 ・近隣小・中学校への授業参観 ・ICTの活用を推進するための校内環境の整備 ③ 働き続けるための体力の向上及び部活動の充実 ・体力作り及び競技力の向上(保健体育の授業の充実、特体連、ゆうあいスポーツ、全スポ等への積極的な参加) ・自己表現できる芸術文化活動(高文連等) ・部活動再編の検討	B		
<ul style="list-style-type: none"> <li>工場方式による校内実習、より多くの職種を経験する現場実習など、自分にあった職業選択ができるよう多様な実習を実施した。進路指導の充実を図り、就職希望者全員の就職先を決定することが課題である。</li> <li>就職後、離職をしない、「働き続けるための力」の育成を目指し、学校教育全体を通じたキャリア教育をさらに進める必要がある。職場開拓のさらなる推進と職場定着までの継続した卒業生支援を継続して行っていく必要がある。</li> <li>専門教科においてクリーニング師の国家資格、ガス溶接技能講習、農業検定、被服検定等を行っている。新たな資格取得に向けた取り組みの検討が必要である。</li> </ul>	2 職業生活に必要な基礎的・基本的知識及び技術・技能の確実な習得	④ (キャリア教育を推進し、就労100%達成を実現するための)職業教育や進路指導の充実 ・職場開拓、ジョブマッチング、情報の共有 ・専門教科の内容の見直し ・卒業生支援、進路だよりの発行等 ⑤ 現場実習・校内実習の充実 ⑥ 技能競技大会、各種資格や技能検定等への挑戦 ・食品衛生管理者	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>「歩く会」「集団行動・カラーガード」「クラスマッチシリーズ」「光陽祭」等の感動的な活動をととして、自己肯定感、自己有用感の育成を図る必要がある。</li> <li>「おはようタイム」や「生徒会活動」、「自治会活動」等、生徒主体の特別活動のさらなる推進を図る必要がある。</li> <li>対応検討会議や校内支援連絡会議、いじめ防止対応検討委員会、校医の精神科医を招聘し支援会議を開催した。スピード感のある校内支援体制の推進が課題である。</li> <li>寄宿舎では、「マイタイム」、「アパートタイム」、「グループホームタイム」、「生活スキル検定」に組み込み、自己管理能力の育成を図っている。新たな取り組みの検討が必要である。</li> <li>学校と家庭との連携を密にし、さらに自己管理能力の向上及び定着を図る必要がある。</li> </ul>	3 社会人・職業人として求められる態度や規範意識等の向上	⑦ 信頼関係を基盤とした協力し合う心や挑戦する心、自律心等を育てるための体験的な活動の充実 ⑧ 主体的な特別活動の推進 ・おはようタイム・生徒会活動・委員会活動・自治会活動等 ⑨ スピード感のある校内支援体制の推進 ・トーキングタイム・校内支援会議・生徒指導対応検討会議・いじめ防止対応検討委員会・ケース会議等 ⑩ 寄宿舎における自己管理能力の育成 ・活動がない日の設定(週1日) ・マイタイム・グループホームタイム・アパートタイム・スキル検定の充実	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週金曜日の職員清掃、学期1回の職員大掃除を実施している。安全点検の充実と4S(整理・整頓・清潔・清掃)の徹底に努めている。</li> <li>学校、寄宿舎において、様々な想定や時間帯に防災訓練の実施やヘルメットを携帯させること等により、災害時の安全、防災意識を常に高めている。さらに教師主導から生徒主体の避難訓練、新たな状況を想定した防災訓練の充実を図っていく必要がある。</li> <li>外部講師による健康講話や保健学習を実施し、健康教育の推進を図った。家庭や関係機関との連携を継続して図っていく必要がある。</li> </ul>	4 学校の安全管理及び健康教育の充実	⑪ 学校の施設設備、器具用具等の安全点検の充実と4S(整理・整頓・清潔・清掃)の徹底 ・トイレ・更衣室の清掃 ⑫ 防災教育の見直し ・避難訓練の見直し(内容・回数) ⑬ 危機管理マニュアル(危険等の発生時対処要項)による研修の充実 ・アレルギー対応等 ⑭ 健康教育の充実 ・計画的な保健学習 ・家庭や関係機関との連携	B		
<ul style="list-style-type: none"> <li>「光陽祭」では、『思いを形に！レッツ・チャレンジ！』のテーマのもと、生徒実行委員会を中心とした光陽祭(産業祭+文化祭)を実施した。使用済み切手を集め、社会貢献活動を行った。</li> <li>学校行事として、歩く会、保護者会としてのわくわくスクールデイの開催、合唱コンクールやダンス選手権等のクラスマッチシリーズ実施し、保護者へ生徒の教育活動の理解と関心を高めることができた。保護者の参加率を維持していくことが必要である。</li> <li>本校の教育活動の理解啓発を積極的に行っていく必要がある。そのためにも、オンリーワンの取り組み、交流及び共同学習、地域の方々や小・中学校への情報発信の充実にも努めていく必要がある。</li> </ul>	5 地域に開かれた特色ある学校づくりの推進	⑮ オンリーワンの取組の充実 ・20周年記念事業 ・海外修学旅行 ・歩く会・光陽祭・マルシェ ・集団行動・フラッグ等 ⑯ 交流及び共同学習の充実 ⑰ 情報発信の充実 ・学校説明会、見学会等の充実 ・ホームページ・保護者会の充実 ※保護者会の参加率(85%) ・小・中学校への理解啓発	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>経営企画会を学校運営の基軸として、諸課題について教頭・教務主任・副教務主任・事務主任・学部主事・学年主任から意見を聴取し、組織的な学校運営を行っている。</li> <li>P D C Aサイクルによる見直し改善を行い、業務の効率化を図っていくことが課題である。</li> <li>危機管理の観点から職員室入口に職員の動静を確認するボードを設置し、リアルタイムに所在が把握できるようにしている。</li> </ul>	6 効率的な学校運営のための見直し・改善	⑱ 経営企画会、運営委員会を中核とした学校運営の推進 ⑲ P D C Aサイクルによる見直し改善 ⑳ 定時退勤日の推進(月2回)	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度への改善策
総務部門	効率的な学校運営のための各部門の連携	経営企画会での検討と実施、部門間の連携、早期立案のための業務進行管理	⑮⑯⑰⑱⑲	A	(課題)教育課程の検討、年間指導計画の見直し。
教務部	教育課程の実施、個別の教育支援計画・指導計画の見直しと活用	合理的配慮の研修をととした教育支援計画等の見直しと活用、教育課程実施状況把握による教科用図書選定等を含めた教育課程の検討・編成	①②④⑤⑥	B	(改善策)学習指導要領の改訂に伴う各教科等における目標及び学習内容の確認・検討。
	各ビジョン実現のための各業務分掌部の組織的な連携	地域に開かれた学校づくりに向けた、各取り組みの充実と評価改善	⑮⑯⑰	B	(改善策)小学校への案内拡大。チャレンジスポットのすみわけ。
	学校の情報発信の充実、公正公平な入学者選考(指定教育相談と連動した効率的な入学者選考への取り組み)	本校の魅力伝える工夫や対象者のニーズに応じた説明会の工夫と開催 指定教育相談における実態(学ぶ意欲、家庭の支援力)の的確な把握と適正な入学者選考の実施	⑰⑱	A	(改善策)授業内で事例等を挙げ、対策や解決方法についての知識や理解を深めていく。
総合支援部	校内支援の推進	トーキングタイム、ランチタイム相談の実施 校内支援会議の実施、関係機関との支援会議 生徒の実態把握のための標準検査の実施	⑨	A	(課題)学校見学参加への案内の工夫。KOUTOKUマルシェ校外版とチャレンジスポットのすみわけ。
	特別支援教育のセンター的機能の促進と充実	学校見学、コース体験 専門家派遣事業	⑰	B	(改善策)小学校への案内拡大。チャレンジスポットのすみわけ。
	交流及び共同学習の促進	学校間交流、地域交流の内容の充実	⑯	A	(改善策)小学校への案内拡大。チャレンジスポットのすみわけ。
	特別支援教育に対する理解啓発	チャレンジスポットの拡大、計画、実施	⑯	B	(改善策)小学校への案内拡大。チャレンジスポットのすみわけ。
危機管理部	防災教育の推進	避難訓練、学校防災委員会の実施 救助袋等の体験活動の充実	⑫	B	(課題)マニュアルの充実。(改善策)マニュアルと連携した災害別に合わせたタイムライン計画の作成。
	防災管理の徹底及び組織活動の充実	防災倉庫内の備蓄品の充実 マニュアルに基づいた避難訓練を計画的に実施し、マニュアル及び防災対策組織の見直し	⑫⑬	B	(改善策)マニュアルと連携した災害別に合わせたタイムライン計画の作成。
情報メディア部	校内ネット環境の充実	ICT機器の活用と校内ネット環境の見直し	②⑪	B	(課題)生徒の実態に応じた情報モラル、セキュリティの推進。
	ホームページの充実	学校ブログによる学校行事等最新の情報発信	⑰	A	(改善策)授業内で事例等を挙げ、対策や解決方法についての知識や理解を深めていく。
	教職員・生徒の情報機器の活用力向上	教員がICT機器を使用した授業の実施と生徒のタブレット活用 生徒が情報関係各種検定3級程度を取得することができるよう支援	②⑥	A	(改善策)授業内で事例等を挙げ、対策や解決方法についての知識や理解を深めていく。
	校務支援	共有データの書式の見直し・計画、改善提案	⑯	B	(改善策)授業内で事例等を挙げ、対策や解決方法についての知識や理解を深めていく。
	情報モラル、情報セキュリティの推進	生徒・教員の情報モラル・セキュリティに対する意識向上のための研修の実施	①	B	(改善策)授業内で事例等を挙げ、対策や解決方法についての知識や理解を深めていく。
教育指導部門	教科指導等における自立活動の充実	学校課題研究及び計画訪問等と関連させて実施 専門家による教職員向けの研修会の開催 (対象者：本校職員及び近隣の小・中・高等学校の職員等) 生徒本人との合意形成に基づく、より合理的配慮の決定及び実施	①	A	(課題)生徒の実態に応じた情報モラル、セキュリティの推進。
学習・研究部	主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善、ICTの活用	年間指導計画における各教科等の内容と「ジョブスタディ」の関連の明確化による、より実際的な学習指導の実施 校内授業参観の実施	①③②	A	(改善策)「ジョブスタディ」において、自己理解(障害特性等)を深めるための学習内容の位置付けの明確化を図る。
	働き続けるための体力の向上及び部活動の充実	グループ学習やペア学習などによる主体的・対話的で深い学びの実践 ICTの活用を推進するための校内環境の整備	②②	B	(改善策)授業内で事例等を挙げ、対策や解決方法についての知識や理解を深めていく。
	働き続けるための体力の向上及び部活動の充実	保健体育科の授業の充実、特体連やゆうあいスポーツ等の各種大会への参加 自己表現できる芸術文化活動への参加(高文連等)	③	A	(改善策)授業内で事例等を挙げ、対策や解決方法についての知識や理解を深めていく。

就労指導部	働き続けるための系統的・段階的な進路指導の充実	実習評価表の活用方法の工夫と学習研究部との連携	④⑤	B	B <課題> 卒業後1年未満の卒業生支援について。 (改善策) 離職に至るケースを少しでも改善できるように、来校を促し、相談できる環境を一層整えていく。
		障害者雇用及び職業生活に関する情報整理と情報提供方法の工夫	④⑤⑥⑦	A	
		企業や関係機関と連携した職業教育の充実	④⑤	B	
	生徒一人一人の進路希望に応じた実習及び就労先の開拓	関係機関と連携した職場及び職域開拓	④⑦	A	
	卒業生支援の充実	卒業生の職場定着状況確認と関係機関との連携	④	B	
保健指導部	整理・整頓・清潔・清掃の徹底	通年の職員清掃・備品管理	⑪	B	B <課題> 掃除用具の管理 健康・食事に関して配慮を要する生徒が新規に出た場合の、校内連絡体制の確立、給食週間や企画献立等の生徒への意識付け。 <改善策> 掃除用具の購入及び定期的な手入れ。健康・食事マニュアルの有効な活用。 放送や掲示などで積極的に生徒へ伝えていく。
	保健指導の充実	健康診断結果通知の工夫 傷病についてのリーフレット作成 保健指導用資料の工夫 WBGT測定の実施、周知	⑮	B	
	健康・食事に関して配慮を要する生徒への対応の徹底	慢性疾患や食物アレルギーを有する生徒・保護者への健康相談の充実 健康・食事に関する特別委員会における情報交換及び対応の検討、職員への周知 「健康・食事マニュアル」の有効な活用	⑬⑭	B	
	学校保健・食育委員会の充実	協議内容の検討、学校医との連携	⑮	A	
	食育指導の充実	各種ランチの実施・献立の工夫 (クラスランチ・スクランブルランチ・部活ランチ、セレクト制、リクエスト献立、旬の食材の利用、地産地消の推進)	⑭⑮	B	
生徒指導部	情報の収集、提供、共有と指導の一貫性を図る。	緊急に支援が必要な生徒への対応については、迅速に情報を収集、共有して対応する。	⑨⑱	A	A (課題) 時代の変化に対応した学校生活のきまりの作成。 (改善策) 生徒指導部研修会や校内部会による検討、見直し。
		反社会的行動等を起こした生徒は、対応検討会議において指導内容及び解除テスト等について検討し、指導にあたる。	⑨	A	
		学校生活のきまり、マニュアル等の配付、見直し インターネット(SNS)安全指導の実施 不審者対応研修会の実施	⑦⑰	B	
	通学指導の充実	公共交通機関(電車)のマナー向上を目指した登下校指導の実施 不審者等に対応した臨時下校指導の実施 通学方法検討会の実施 交通安全指導の実施	⑦⑱	A	
渉外部門	計画的な委員会の開催	委員会開催の調整、各委員会の協議内容確認	⑰	A	B (課題) 保護者のPTA活動への参加率向上と保護者同士のつながり。 (改善策) 各委員会の事業内容の工夫と見直し。 保護者同士がつながりのもてる事業内容の検討。
		本部役員、学年委員、常設委員同士の連携及び情報交換	⑱	A	
	PTA事業内容の工夫と保護者参加率の向上	PTA事業内容の工夫と参加率向上	⑱⑲	B	
		PTA行事のホームページ掲載等積極的な情報発信	⑰	B	
	茨特P連や茨知P連、全知P連や関知P連等研修会への参加と報告及び情報交換	PTA諸団体行事や研修会等への計画的な参加と報告及び情報交換	⑰	A	
舎務部門	学校や家庭と協力しながら生徒の個性を適切に把握する。	個別の指導計画(自己管理能力評価票)を作成し、学校・家庭と連携した指導・支援に努める。	①⑩	B	A (課題) 生徒の服薬管理の徹底と情報共有。 (改善策) 職員間の情報共有の徹底とヒヤリハット報告書の活用。
	自治会活動をととして、生徒の共同・協働活動の充実を図る。	生徒のニーズに即した行事及び活動内容の見直しを図る。	⑨⑲	A	
		体験活動や生徒同士が協力して活動できる場面を増やし、協力する心や思いやりの心を育てる。	⑧	A	
	自己管理能力の育成を図る。	生活スキル検定を、希望制ではなく寄宿舎生全員に計画的に実施し、基礎的・基本的なスキルの定着を図ると共にマイタイムを活用し、活動がない日を週1回設定することで、自分で考えて生活する習慣を身に付ける。	⑩	A	
	職員研修の充実を図り、さらなる専門性の向上を目指す。	継続的に職員研修を実施し、指導員としての専門性を高める。	①⑭	B	
	生徒の心の動き・変化等を適切に把握し、生徒の心に寄り添った指導・支援に努める。	連絡会議や日々の申し送り等におけるケース会議を充実させ、全ての指導員が生徒のケースや支援方法について共通理解できるよう努める。	①⑩	A	
事務部門	施設の安全と環境美化への取り組み	施設巡回・定期的な巡回を行うことにより、危険箇所の早期発見・早期改修を実施する。 管理委託・大規模設備の管理委託により、教育環境及び住環境の適正な管理・補修に努める。 校内美化・植栽の手入れや除草等を年間計画で行い、年次計画をもって芝生の再生に努める。	⑪	A	B (課題) 予算管理の適正化 (改善策) 下記の猛暑など気候が年々著しく変化してきている。この対応が必須であることから予算の節約に向けた方向性を変えて検証しつつ効果的な配分への転換を進める。
	環境負荷の少ない社会への取り組み	グリーン購入に該当する物品の積極的な購入・・・茨城県環境保全率先実行計画を推進するため、環境負荷の低減を考慮した物品購入をできる限り行なう。 節水対策・・・職員の節約意識向上及び日々の使用量を確認することにより漏水の早期発見を行う。 前年度比減少を目指す。 節電対策・・・冷暖房の適正な温度管理や照明のこまめな消灯により基本料金を抑え、前年度比減少を目指す。	⑪⑲	B	
	予算管理の適正化	運営費節約・各種物品の在庫確認を徹底や、学年・校務分掌からの物品購入の集約化を通じ、一般需要の節約を進め、教授用品の充実や必要に応じた予算配分を行い、予算の有効かつ適正な執行に対応する。 燃料費対策・冬季の暖房時間の見直しと適正な温度管理を行い、暖房用燃料を節約する。 修繕料対策・修繕箇所、簡易な破損状況に応じて職員による修繕を実施し、経費を節約する。	⑲	B	
1年	習熟度別学習をととして基礎的学力の定着を図り、達成感や自己肯定感を育てる。	板書や発問の仕方、ワークシート等を工夫し、授業内容の充実を図ることで、「できた」「わかった」という場面を数多く設定する。	①②③④⑦	B	B (課題) 自己理解と課題の意識。 (改善策) トーキングタイムでの聞き取り内容と現場実習や校内実習の評価の活用、ジョブスタディの授業の充実。
	体験活動をととして社会人・職業人としての態度や規範意識とともに体力の向上を図る。	校内実習やデュアル型現場実習、短期集中型現場実習等の働く体験の中から、社会人・職業人に必要な態度や規範意識の大切さを学ぶ。	⑥⑧	B	
	3食の食事をととして、好き嫌いをなく、残さず食べる習慣を身に付け、体力と共に心の安定を図る。	食べられる量を知り、完食できた体験を積み重ね、残さず食べることを賞賛し、食べることの大切さを知ることができるようになる。(偏食への指導に努める)	⑮	A	
	寄宿舎や家庭との連携を深め、生徒の実態・課題の共通理解を図り、同じ視点で支援する。	個別面談、学年だよりの内容の充実を図り、家庭との連携を密にする。 寄宿舎のフォーカスデーシートを活用し、課題の共有化を図るとともに、具体的な支援方法を確認し合う。 トーキングタイムを実施し、生徒の実態把握に努め、共通理解のもと支援にあたる。	⑩⑪⑱	A	
2年	自己理解を育て、自主的に課題解決に取り組み、社会人として必要な基礎・基本となる学習内容の定着を図る。	ジョブスタディをととして、自己理解を促進し、自らの課題を克服できるようにする。 習熟度別グループの学習をととして、生徒の実態や課題に応じた学習を展開し、自己肯定感や自己有用感を育てるとともに、自律心や協調性を身に付ける。	①②③④⑦	A	B (課題) 将来、働き続けるための自己の健康管理。 (改善点) 自己の健康管理について意識し、日常生活で定着を促す指導計画と支援の実施。
	集団生活における好ましい対人関係を養う。	トーキングタイムを実施し、生徒の心身の状態を的確に把握し、指導に生かす。	⑧⑩⑪	B	
	職業生活に必要な知識・技能・態度を身に付ける。	現場実習をととして、職業適性や課題を明確にし、個々に応じた進路指導に努める。	⑤⑥	A	
	食事をととして、好き嫌いをなく、残さず食べる習慣を身に付け、体力と共に心の安定を図る。	食べられる量を知り、完食できた体験を積み重ね、残さず食べることを賞賛し、食べることの大切さを知ることができるようになる。(偏食への指導に努める)	②⑮	B	
3年	自己肯定感を大切に、新しいことに積極的に挑戦する。	「やってみる」「できた」体験を多く取り入れ、自己肯定感を様々な場面で味わわせることで積極的に学習活動に取り組む環境を整える。	①②④⑥⑩	A	B (課題) 学んだことの定着と般化。 (改善策) 食生活、身だしなみ、生活時間、金銭管理など具体的な課題の共有を徹底する。
	働き続けるために必要な知識及び技能・態度を身に付ける。	現場実習やジョブスタディをととして、職業人としての意識付けを行うと共に新しいことへ挑戦する心、働き続けるための知識や技能、態度を学ぶ機会を設ける。	①②③④⑤	B	
	トーキングタイムを計画的に実施し、生徒個々の困り感を明確にし、共通理解を図り、的確な支援を行う。	トーキングタイムの記録の供覧をととして、生徒の抱えた問題に目を向け、支援内容や支援方法を学年全職員で共通理解し、共通した指導感でかかわる。	⑦⑨⑩	B	
	働くための健康管理・体力の維持に必要な食事を考え、偏食のない食事をとる習慣を身に付ける。	食べることの大切さを知り、自ら健康管理・体力を維持するためにバランスのよい食事をとる習慣を身に付ける。	⑦⑭	A	